

### 本時の見どころ

少子高齢化と人口減少が進む日本では、外国人労働者の受け入れ態勢を整えていくのか、これまで通り制限していくのか大きな選択を迫られています。本時は外国人労働者の受け入れを緩和すべきか制限すべきかについて「効率と公正」という視点や少子高齢化、グローバル化など現代社会の特徴を基に考え議論します。それを通して立場のちがいや社会への影響など多面的・多角的に考える姿をご覧ください。

## 社会科（公民的分野）学習指導案

|     |                            |
|-----|----------------------------|
| 日 時 | 平成 29 年 11 月 17 日（金）第 2 校時 |
| 場 所 | 熊本大学教育学部附属中学校 社会科教室        |
| 年 組 | 熊本大学教育学部附属中学校 3 年 2 組 39 名 |
| 指導者 | 熊本大学教育学部附属中学校 教諭 小田修平      |

### 1 単元名 生産と労働（東京書籍 p.128~p.135）

### 2 単元について

#### (1) 単元観

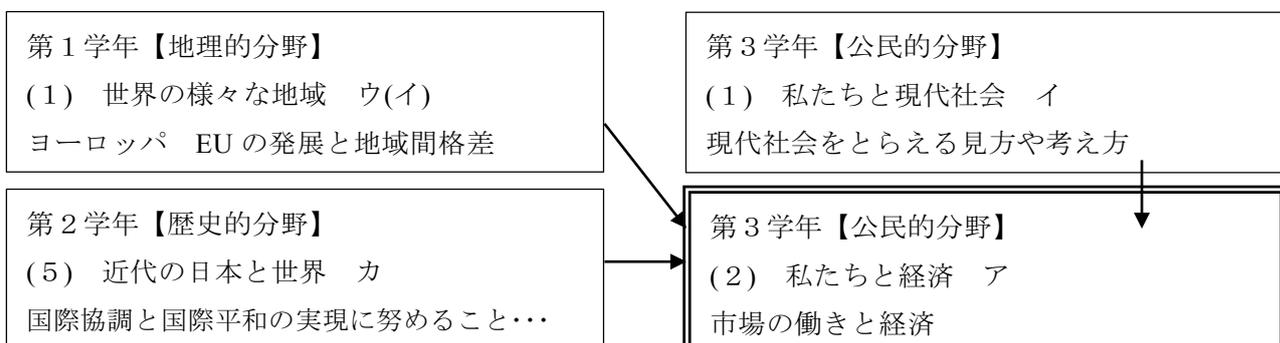
本単元は、中学校学習指導要領の公民的分野「(2)私たちと経済」の「ア 市場の働きと経済」に含まれる内容である。ここでは、「経済活動の意義について消費生活を中心に理解させるとともに、価格の働きに着目させて市場経済の基本的な考え方について理解させる」ことや「現代の生産や金融などの仕組みや働きを理解させるとともに、社会における企業の役割と責任について考えさせる」こと、またその際、「社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について、勤労の権利と義務、労働組合の意義及び労働基準法の精神と関連づけて考えさせる」ことをねらいとしている。

日本は戦後の復興を成し遂げた後、高度経済成長を経験し、物質的な豊かさや繁栄が見られるようになった。そして今、日本経済は世界の中で大きな地位を占めている。多くの日本企業が国内の活動だけでなく、海外に工場や支店を設け国際的な活動を行うようになっている。その中で長引く不況が続き、労働者を取り巻く様々な問題も見られる。

本単元は、経済活動が社会生活のあらゆる面で密接な関わりを持っていることを踏まえながら、今日の経済活動に関する諸課題について着目させ、自ら問題解決しようとする力を育てるのに適した単元である。

#### (2) 系統観

本単元における系統は以下の通りである。



### (3) 生徒観

本学級は、明るく活発な生徒が多い。積極的に発表や質問をすることができ、大変意欲的である。また、ペアやグループでの話し合いも活発に行われ、自然に教え合いや学び合いができる。本単元における、生徒の実態を事前アンケートから分析した。結果は以下の通りである。

1 社会的論争問題について、議論することは好きですか。

( 好き 18    どちらかといえば好き 16    どちらかといえば嫌い 5    嫌い 0 )

【好き・どちらかといえば好きの理由】

- ・同じ意見でも違う角度から見た意見を聞けたり、違う意見でも納得できたりするから
- ・意見を出し合い、深めるのが面白いから                      ・私たちが生きる未来の問題だから
- ・ニュース等と関連していて身近なことだから

【どちらかといえば嫌いの理由】

- ・白熱した議論に参加する力がないから    ・結論が出にくく、平行線になりがちだから
- ・いずれ解決されることだし、私が議論しても何も変わらないから

2 政治や経済に関するニュースに関心がありますか。

( ある 13    どちらかといえばある 12    どちらかといえばない 13    ない 1 )

3 外国人労働者の受け入れに関する問題について関心がありますか。

( ある 14    どちらかといえばある 8    どちらかといえばない 10    ない 6 )

このことから、社会的論争問題について議論することに積極的に参加する生徒が多いことが分かった。互いに意見を述べ合うことで、自らの考えが深まることを体感している生徒が多いようである。また最近のニュースとの関連性や自らの将来との関わりで考えられる生徒も多い。しかしながら、どちらかといえば嫌いという生徒の理由に着目すると、議論が平行線を辿ることや解決したいという意欲を喚起できていないという点も浮かび上がる。本時の学習において、這い回る議論にならぬように深める発問や資料の活用がカギになるのではないかと考えられる。

### (4) 指導観

- ・ 1, 2次では企業の種類, 働き, 社会的責任について, 3, 4次(第1時)では労働者の権利や課題について扱うことで生産と労働について企業と労働者の両側から見えるようにしたい。
- ・ 4次(第2時)では, 働きやすい職場を築くためには, どのような社会を作ればよいのかを考えさせたい。その際に, 以下の3点を関連させて考えられることが望ましい。
  - ①前時まで学習した企業と労働者の両側からの視点
  - ②地理(ヨーロッパ州)で学習した労働者の移動とそれによって生じる問題点
  - ③歴史(近現代史)で学習した国際協調に努めることの重要性
- ・ 4次(第2時)では, 外国人労働者の受け入れに関して議論することを通して, 現代の日本が抱える労働と雇用の問題について考えることは, よりよい社会づくりを考えることにつながると気づかせたい。

### 3 単元の目標

|                     |  |
|---------------------|--|
| 社会的事象への<br>関心・意欲・態度 | さまざまな労働や雇用の課題について、将来自分も関わる課題として関心を持ち、その解決策について意欲的に追究することができる。                        |
| 社会的な<br>思考・判断・表現    | 企業や雇用に関する課題について、さまざまな資料を基に多面的・多角的に考察し、その解決策について話し合う中で、自分の考えを分かりやすく説明している。            |
| 資料活用の技能             | 企業や雇用に関する課題について、統計資料や事例などから情報を収集・選択し、適切にまとめている。                                      |
| 社会的事象についての<br>知識・理解 | 職業を通して社会に参加し自己実現することは、労働の重要な意義であることや、非正規労働者や外国人労働者の増加など雇用に関する課題について理解し、その知識を身につけている。 |

### 4 単元の指導計画と評価（規準）計画（全5時間 本時 5/5）

| 次                                       | 時       | 主な学習活動   | 評価  |
|---|---------|--|---|
| 1                                       | 1       | 「資本主義経済と企業」<br>・企業の生産活動を中心に、資本主義の大まかな特徴を理解する。                      | ・資本主義経済の仕組みを理解し、その知識を身につけている。【知識・理解】                                  |
| 単元を貫く課題： これから日本が目指す生産と労働は、どうあればよいのだろうか。 |         |  |   |
| 2                                       | 1       | 「株式会社の仕組みと企業の社会的責任」<br>・企業の社会的責任について具体的な事例を基に考え、考えたことを表現する。        | ・企業の社会的責任について、企業や消費者、地域住民などの立場から多面的・多角的に考え、その過程や結果を表現している。【思考・判断・表現】  |
| 3                                       | 1       | 「労働の意義と労働者の権利」<br>・職場体験などの具体的な事例を踏まえた話し合いを通して、労働の意義について考える。        | ・労働の意義について、職場体験や具体的な事例などを基に、意欲的に追究している。【関心・意欲・態度】                     |
| 4                                       | 1       | 「働きやすい職場を築くために①」<br>・労働の在り方や雇用をめぐる環境の変化について、資料を収集・選択して読み取り、関心を深める。 | ・増加する非正規労働者や外国人労働者の実態などについて、資料を収集・選択し図表などにまとめている。【技能】                 |
|   | 1<br>本時 | 「働きやすい職場を築くために②」<br>・現代日本の労働や雇用の課題を自分も将来関わる課題として捉え、その解決策について考える。   | ・現代の労働や雇用の課題について、経営者や労働者などの立場から多面的・多角的に考察し、自分の言葉で考えを表現している。【思考・判断・表現】 |

### 5 本時の学習

#### (1) 本時の目標・内容・方法

|     |   |
|-----|---|
| 目 標 | 外国人労働者の受け入れについて、「効率と公正」の視点や現代社会の特徴を基に考えることで、立場のちがいや社会への影響など多面的・多角的に考える力及び態度を育成する。 |
|-----|---|

|     |  |
|-----|--|
| 内 容 | 外国人労働者の受け入れを緩和すべきか制限すべきか、また外国人労働者を含む誰もが働きやすい社会にするために、どのような環境整備や条件整備が必要なのかを議論のテーマとして扱う。 |
| 方 法 | 外国人労働者の受け入れを緩和すべきか制限すべきかについて自分の立ち位置を明らかにさせ、そう考えた理由をもとに全体で議論を行う。                        |

(2) 本時の展開

| 過 程   | 時 間  | 主な学習活動   | 学習形態   | ○教師の指導<br>・予想される生徒の反応   | 教材資料等            |  |
|-------|------|--|--------|---|------------------|--|
| 導 入   | 5 分  | 1 外国人労働者の受け入れに関するこれまでの経緯や諸外国の状況について確認する。       | 一斉     | ○前時の学習を生かして、情報を端的に整理する。<br>・少子高齢化が進む中で外国人労働者の受け入れが必要になってきている。<br>・外国人労働者の受け入れを拡大すると、治安が悪化するのではないかという懸念がある。 など                                 | プレゼン資料           |  |
| 展 開   | 40 分 | 学習課題：これから日本は、外国人労働者の受け入れを緩和すべきか制限すべきか。         |        |   |                  |  |
|       |      | 2 外国人労働者受け入れについて議論する。                          | 一斉     | ○緩和・制限どちらかの立場に立つだけでなく、複数の根拠をもつことができるようにさせておく。<br>○「効率と公正」という見方や「少子高齢化」等の現代社会の特徴（キーワード）を使って考えるように指示する。<br>○企業(雇用者)、労働者等どの立場から物事を見ているか分かるようにする。 | プレゼン資料<br>ワークシート |  |
|       |      | 中心発問：あなたが経営者ならば、外国人労働者に対してどのような環境整備、条件整備をしますか。 |        |   |                  |  |
|       |      |  |        | ○11月1日に新しく施行された技能実習制度を提示して考えさせる。  |                  |  |
| ま と め | 5 分  | 3 本時の学習を振り返る。                                  | 個人ペア一斉 | ○議論によって、明らかになってきた問題について、自分なりの解決策や考えたことを発表させる。   | ワークシート<br>評価     |  |

(3) 本時の評価

| 場 面 | 評 価 基 準   |
|-----|---|
| 評 価 | A：外国人労働者受け入れに関する議論を通して、今後どのようによりよい生産と労働を構築していくべきかを、自分の言葉で表現している。<br>B：外国人労働者受け入れに関する議論を通して、今後どのようによりよい生産と労働を構築していくべきかを、友達や資料の言葉で表現している。 |